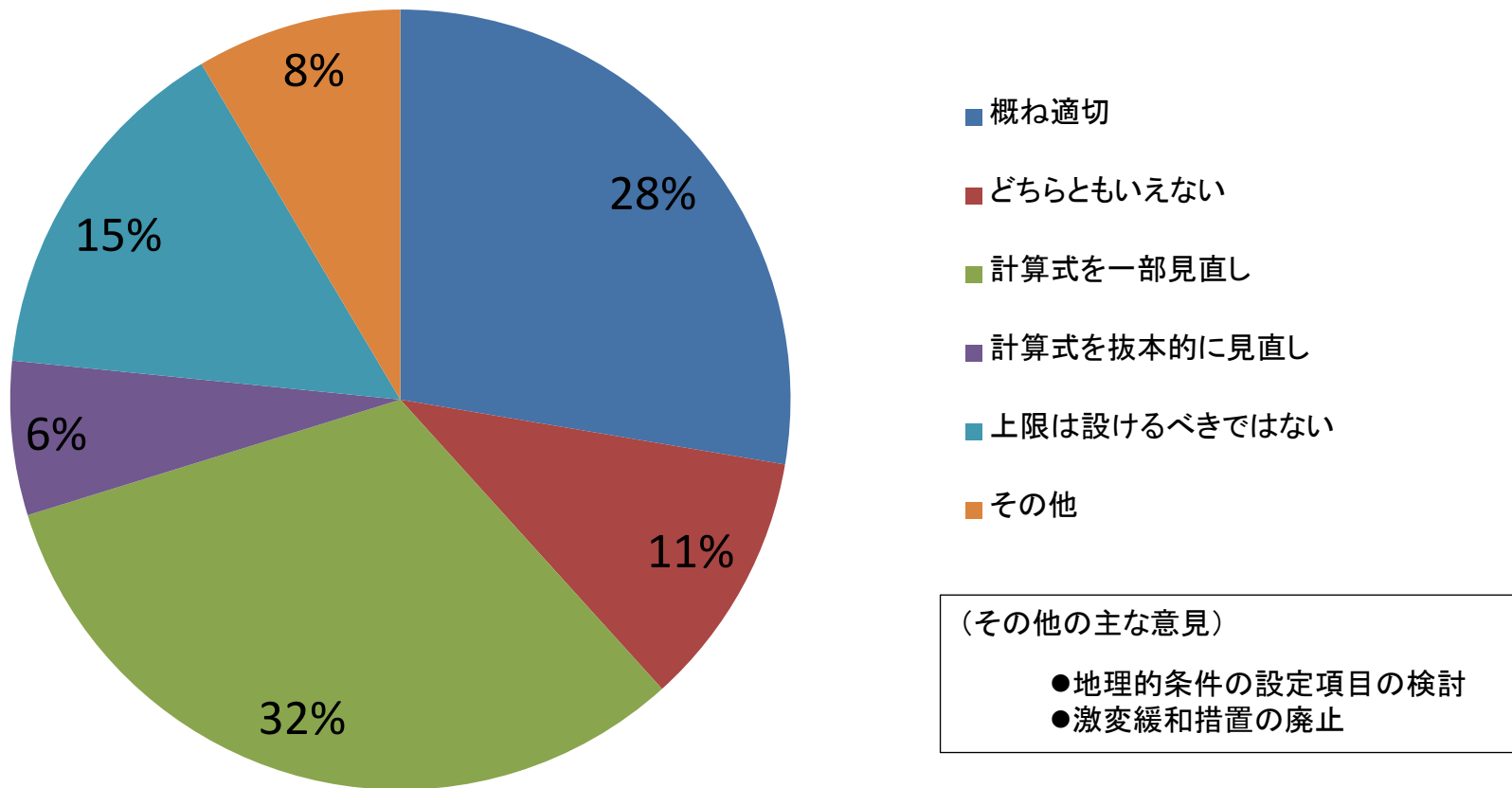


都道府県 医師臨床研修に関するアンケート調査 結果（概要）

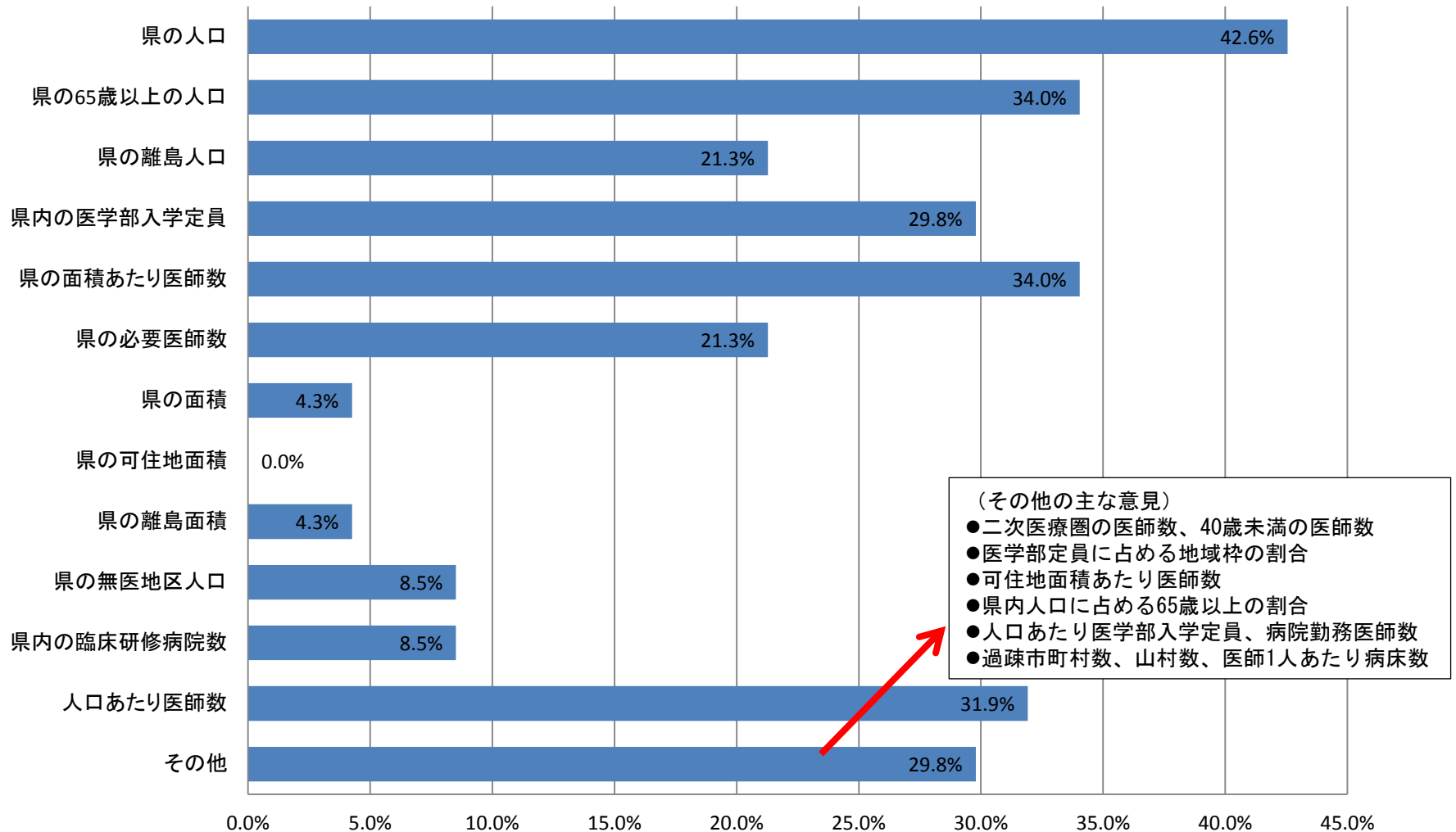
平成24年11月実施

1. 都道府県募集定員の上限

①算出方法についてどのように思うか



②都道府県募集定員の上限を決定する要素として、重要と思われるもの（最大3つまでの複数回答）



③都道府県募集定員の上限等に関する主な意見

- ・ 募集定員と研修希望者数を概ね一致させるべき
- ・ 地域間格差是正のための調整係数を設定すべき
- ・ 医学部入学定員は地域の医療需要等と相関はないため、要素に入れるべきでない
- ・ 人口当たり医師数が全国平均を下回っている場合は、上限を設けな
いか補正係数を設定すべき
- ・ 激変緩和措置の廃止により定員が減る地域への配慮
- ・ 地域枠を別枠で純増されるのであれば、計算式は現行でもよい
- ・ 地域枠の定員数を単純に増加させるべきではない
- ・ 病院の募集定員には過去の実績のみならず、指導体制や努力を反映
すべき
- ・ マッチ保証を廃止すべき

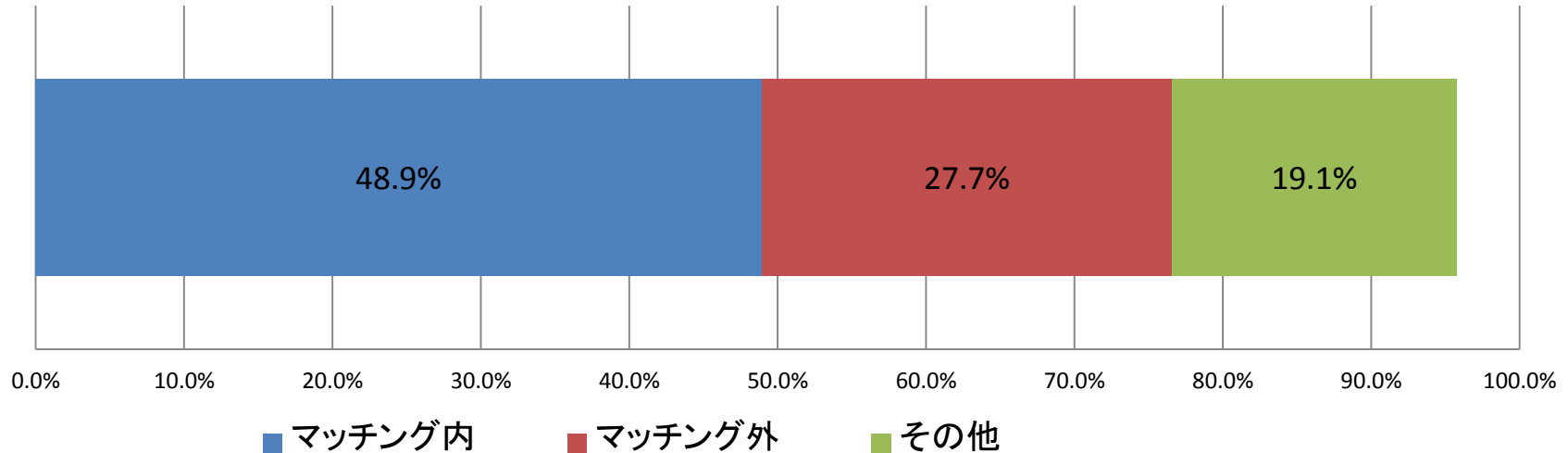
2. 都道府県による募集定員の調整

①都道府県の役割についての主な意見

- ・ 実質的に調整できる定員がない
- ・ 指定手続等は厚生局で行っているため、募集定員の調整のみを県で行うのは困難

3. 地域枠学生とマッチング等

① マッチングの適否 (都道府県内の医療機関から自由に選択し研修する地域枠の場合)



(参考)

【マッチング内】であるべきとする主な理由

- ・ 現行制度でも希望順位の選択等の工夫で対応可能
- ・ 一般学生との公平性
- ・ マッチング外とすると、病院側が選考試験・面接の機会を逸し人物確認ができない
- ・ マッチング外とすると、本人の学習意欲の低下の恐れ
- ・ マッチング外とすると県が調整をすることになる
- ・ 他県からの流入の可能性はある

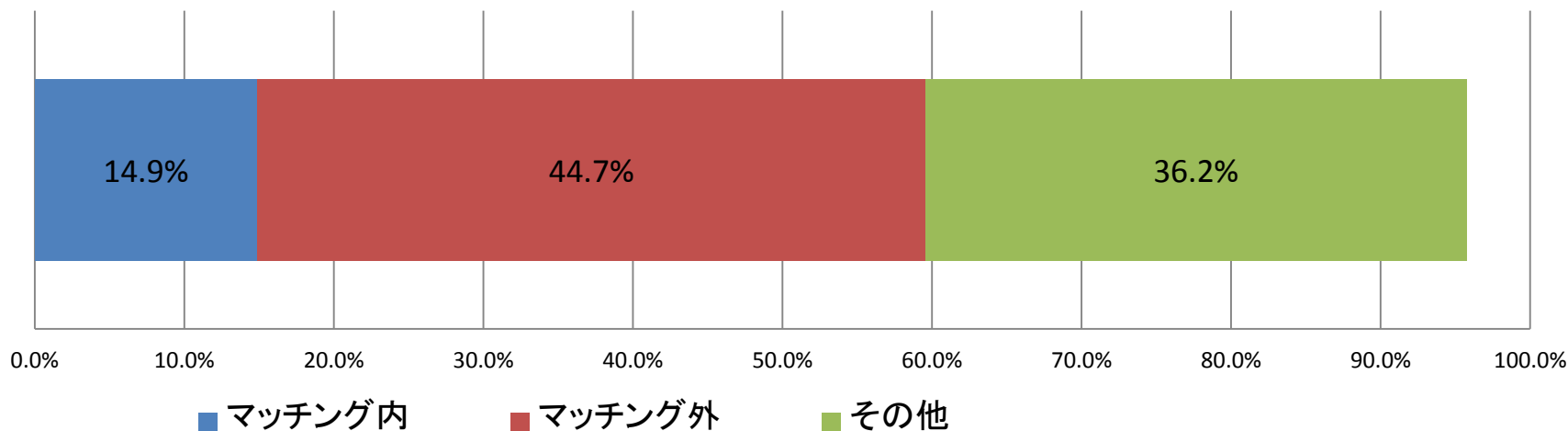
【マッチング外】であるべきとする主な理由

- ・ アンマッチの恐れ

【その他】の主な意見

- ・ 原則はマッチング内とし、アンマッチの場合などに例外的に定員を上乗せすべき
- ・ 各病院の定員の内数で、地域枠のための定員を都道府県が設定できるようにすべき
- ・ マッチング外にすると、1病院の定員を上回る地域枠学生が集まった場合の調整が困難

②マッチングの適否(都道府県内の特定の医療機関で研修する地域枠の場合)



(参考)

【マッチング内】であるべきとする主な理由

- ・ マッチング外で扱った場合、学生のモチベーションやレベルを低下させる恐れ
- ・ 一般学生との公平性

【マッチング外】であるべきとする主な理由

- ・ 自治医大生と同様に扱うべき
- ・ アンマッチを防止するため
- ・ マッチング内とすると、学生に自由な病院選択が可能であると期待されてしまう
- ・ マッチング内とすると、実質的なマッチング募集人数(一般枠の数)がわかりにくくなり透明性が低下する恐れ
- ・ マッチングにはなじまない。ただし、定員の内数にすべき

③地域枠と定員の関係（複数回答）

	項目	割合
1	都道府県上限に加算すべき	48.9%
2	指定された医療機関に加算すべき	36.2%
3	その他	21.3%
4	配慮する必要なし	19.1%

（その他の主な意見）

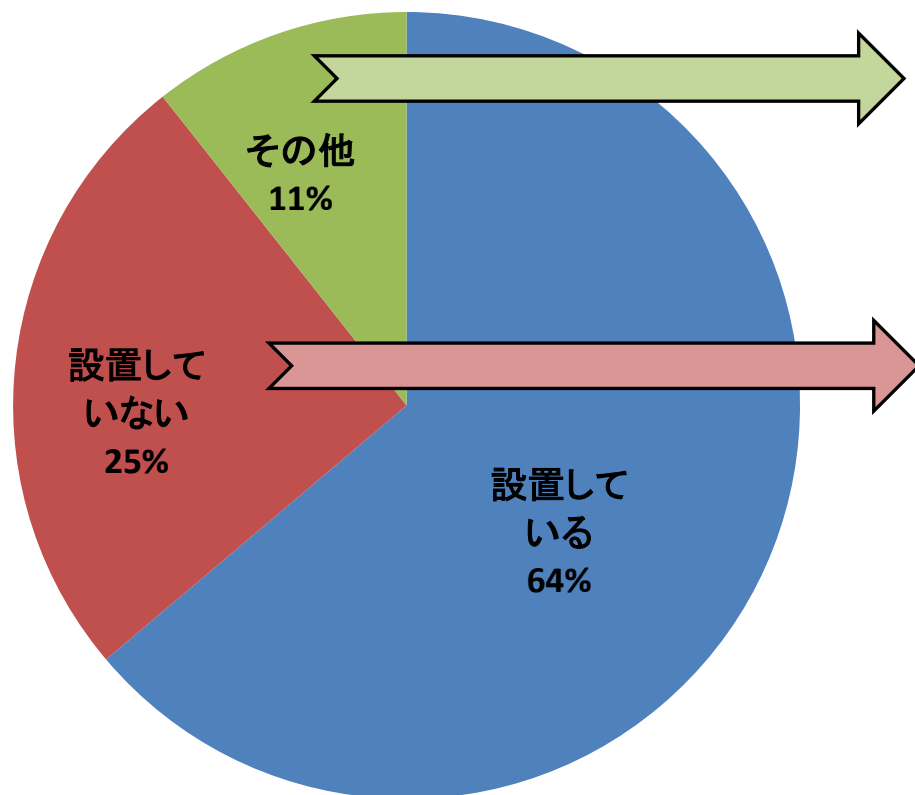
- 単純に加算するのではなく、定員と希望者数が乖離しないような設定が必要
- 地域枠定員分は、別枠で純増してカウントすべき

④地域枠への主な意見

- ・地域枠学生の人数が多いため、マッチング外とすると、事前調整も膨大になりなじまない
- ・マッチングの理念を尊重すれば地域枠を例外扱いする必要はない
- ・地域枠に対応したスーパーローテートプログラムを増加させた場合の、補助金の加算措置等を講じられたい
- ・奨学金貸与者に限らず県内で勤務することを条件として入学した者もマッチ外にすべき

4. 地域協議会

①設置の有無



その他の主な理由

- ・他の協議会等が同様の役割を果たしている

地域協議会を設置しない主な理由

- ・他の協議会等が同様の役割を果たしている
- ・臨床研修病院が多数あり、一堂に会し調整等を行うことは現実的でない
- ・必要性に乏しい

地域協議会への主な意見

- ・地域協議会が取組む事業等に対する財政支援を求める

5. その他

①医師臨床研修制度全般についての主な意見

- ・都市部と地方、人気病院とそれ以外の病院との研修医数の乖離を解消すべき
- ・指定基準における中小病院への配慮が必要
- ・基礎医学への配慮、死因究明に係る解剖医の不足への配慮が必要
- ・マッチ保証を継続すべき
- ・自治医大も含め、地域枠定員を別枠化すべき
- ・定員20人未満でも小・産プログラムの特例定員を設定すべき
- ・奨学金への財政支援が必要
- ・修了評価につき、院外の人や外部機関によるチェック等も必要
- ・指定基準の3,000人は、医療資源の小さな地域などでは弾力的な運用が必要ではないか

速報値

6. 地域枠学生数の推移 (H24. 8現在)

(※臨床研修期間中に県内勤務要件が課されている奨学金貸与者に限る)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
入学年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	
貸与実績	740	706	666	453	282	225	3,072
うち定員増	628	599	552	309	109	35	2,232